

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)
中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語	64	人
② 算数	64	人
③ 理科	64	人

5 留意事項

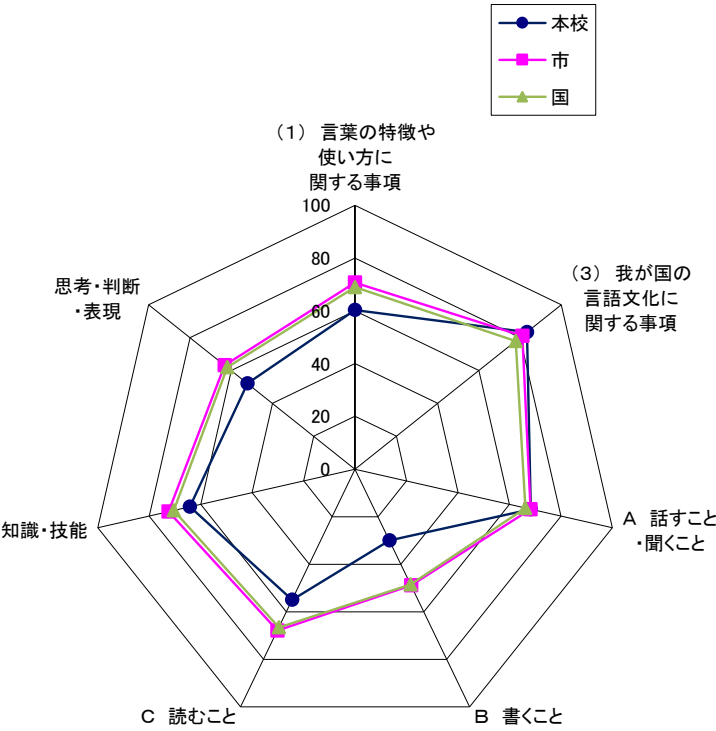
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮南小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	60.3	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方にに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	83.3	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	68.3	68.2	66.2
	B 書くこと	30.0	48.9	48.5
	C 読むこと	55.0	67.9	66.6
観点	知識・技能	64.2	72.5	70.5
	思考・判断・表現	52.1	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

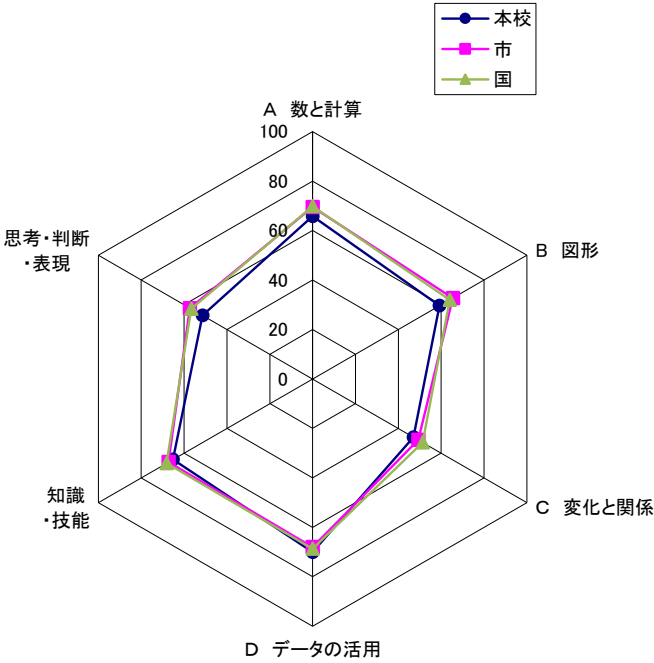
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、全国を下回っている。 ○話し言葉と書き言葉の違いを理解する問題の正答率は8割を超えている。日常的に国語辞典を活用したり、教室環境を整えたりした成果だと考えられる。 ●漢字を正しく書き直す正答率が低く、無解答率が高い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字練習の時に漢字の成り立ちや熟語にも目を向け、同音異義語などにおいても正しく漢字を使うことができるようにする。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、全国を上回っている。 ○漢字や仮名の大きさや配列に着目し、文章全体を捉える問題の正答率が高い。書写の時間やノート指導の中で、文字の中心を意識して書くことを継続的に指導している成果であると考えられる。	・今後も書写の時間を中心に仮名や漢字の大きさや配列を意識し、読み手のことを考えて文字を書けるように働きかけていく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国を上回っている。 ○条件の中で、自分の考えを短い言葉で書く問題の正答率が高い。授業の中で、同類の問題に取り組んだり、振り返りを行ったりしてきた成果であると考えられる。	・授業の振り返りを条件を付けて書く活動を今後も多く取り入れる。
B 書くこと	平均正答率は、全国を大きく下回っている。 ●複数の文章を比較しながら、条件に合わせて文を書く問題の正答率が低く、無解答率が高い。	・国語に限らず、様々な場において書く活動を取り入れ、自分の考えを文章で明確に伝えることができるように指導する。
C 読むこと	平均正答率は、全国を大きく下回っている。 ●物語を読んで、人物像や全体像を想像したり、表現の効果を考えたりする問題の正答率が低い。	・物語文の叙述を基に人物の心情変化やキーワードを押さえることで、物語の表現のおもしろさに気づき、想像力を働かせることができるようにする。

宇都宮市立雀宮南小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	65.8	69.5	69.8
	B 図形	59.2	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	47.1	49.3	51.3
	D データの活用	70.0	68.0	68.7
観点	知識・技能	65.2	67.3	68.2
	思考・判断・表現	51.4	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの

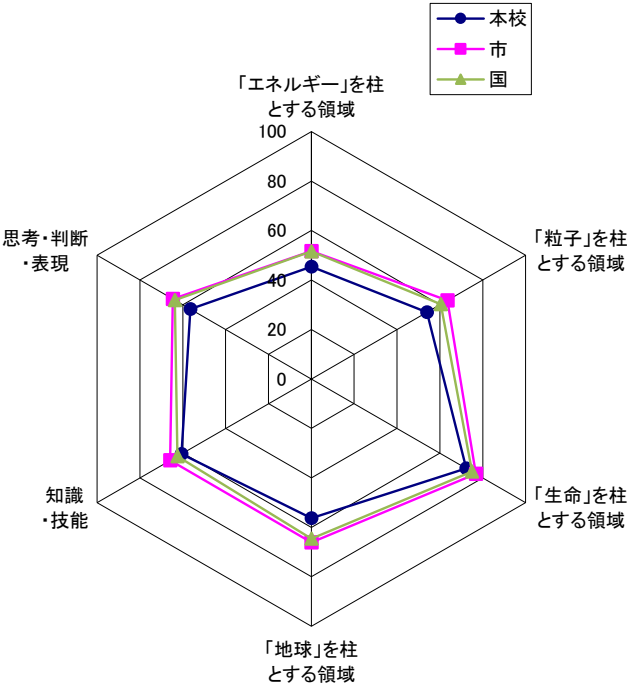
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○ わられる数に空位のある整数の乗法の計算の正答率が高い。 ● 二つの数の最小公倍数を求める設問の正答率が低い。 ● 加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを求める設問の正答率が低い。 ● 箱に縦横に並んでいる商品の1列分の値段を除法で求めることができる理由を、言葉と数を使って記述する設問の正答率が低い。	・ 答えの求め方を言葉や数を使って説明することに苦手意識をもっている児童が多く見られ、無解答者の割合も高い。問題文を読み取り、理解する力を身に付け、説明出来るようにするため、朝の学習や家庭学習などで数値を変えて説明する問題に取り組むようにする。
B 図形	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○ 長方形のプログラムについて、向かい合う辺の長さを書く設問の正答率が高い。 ● 正方形を描くプログラムをもとにして、正三角形を描くプログラムを完成させる設問の正答率が低い。 ● 示されたプログラムから、図形の構成要素を読み取り、どんな図形を描くことができるかを答える設問の正答率が低い。	・ 三角形(二等辺三角形、直角三角形)、四角形(正方形、長方形、平行四辺形、ひし形、台形)の見方や概念を理解できるようにするため、作図や図形の見方等の練習に取り組むようにする。 ・ 作図プログラムの考え方を理解できるようにするため、一人一台端末を活用してプログラミングの考え方の習熟を図る。
C 変化と関係	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○ 百分率であらわされた割合と基準量から、比較量を線分図を使って求める設問の正答率が高い。 ● 百分率で表された割合を分数で表記する設問の正答率が低い。 ● 果汁が含まれている飲み物を分けても果汁の割合は変わらないことを解答する設問の正答率が低い。 ● 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方を式や言葉を使って記述する設問の正答率が低い。	・ 割合の表し方を繰り返し取り上げ、定着を図る。 ・ 割合の考え方の理解を深めるために、復習に取り組むようにする。 ・ 式や言葉を使って説明出来るようにするため、類似の問題に取り組むようにする。
D データの活用	平均正答率は、全国平均を上回っている。 ○ 表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、表を構成する一部に当たる数を求める設問の正答率が高い。 ○ 分類整理されたデータをもとに、目的に応じてデータの特徴を捉え考察する設問の正答率が高い。 ● 目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取る設問の正答率が低い。	・ 他教科との関連も図りながら、グラフの読み方(表題の読み取り、調査対象の確認、データの数値の読み取り)の練習に取り組むようにする。

宇都宮市立雀宮南小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	45.4	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	54.0	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	72.3	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	56.3	66.1	64.6
観点	知識・技能	60.6	65.9	62.5
	思考・判断・表現	56.4	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ●調べたいことに対して、自分で発想した実験方法で実験を行った際、想定していなかった条件について、実験方法を再検討し、改善するための方法を問う問題の正答率が低い。 ●学習問題に対するまとめから、なぜそのようにまとめられるのか根拠を問う問題の正答率が低い。	・実験方法を発想する際に、予想したことが確かめられる方法になっているか再検討したり、観察・実験後に適切な方法であったかを再確認したりするようにし、適切でなかった場合は、その要因を見付け、より妥当な解決方法を考える場を意図的に設定する。 ・学習問題のまとめをする際、実験で得られた結果を学習問題の視点で分析し、自分の考えを表現しながらまとめを行うようにする。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ●水溶液の凍り方について、自分の予想と実験結果が異なった場合、実験結果を基に考察し、考えを再検討し改善する問いの正答率が低い。 ●考察しまとめる中で気付いた事実を基に、新たな学習問題を立てる問いの正答率が低い。	・実験後に考察し結論を導く際に、予想と照らし合わせながら結果を捉えたり、自他の考えを比較したりしながら考察を行うようにすることで、多面的に考え、自分の考えをより科学的なものに改善できる力を育成する。 ・自分と友達の意見を比較しながら差異点や共通点を捉えることを習慣付け、話し合い活動において新たな問題を見出していく場を意図的に設定する。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○昆虫かどうかを説明するための視点を選ぶ問題の正答率が高い。昆虫の定義を基に身近な虫を分類する経験の成果と考えられる。 ●昆虫の育ち方と食べ物の関係を示した表から気付いたことを基に、昆虫の食べものに関する学習問題を見出す問いの正答率が低い。 ●ナナホシテントウを対象として、自分の観察記録に他者の観察記録を合わせて、よりの確にまとめる問いの正答率が低い。	・それぞれの考えや気付きに対して、どこに着目したらよいのかの視点を明確に示しながら分析し、解釈することに重点をおいた授業を展開することで、より適切な学習問題を立てることができるようになっていく。 ・観察実験後に考察を行う際、自分の観察実験記録だけではなく、他者の記録も参考にしながら考察を行うことで、様々な視点から自分の考えを柔軟に見直すことができる力を育成する。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ●結果から考察したことは、提示された結果のどこを分析したものなのかを問う問題の正答率が低い。 ●冬の天気と気温の変化を基に、学習問題に正対した結論を問う問題の正答率が低い。	・数量や変化の大きさなど、結果を分析し解釈するために必要な視点を示しながら結果を振り返り、解釈する場を設定する。 ・観察・実験で得られた結果を考察する際、何を調べようとしているのか学習問題を振り返ったり、既習内容や生活経験を関連付けたりして考えるようにすることで、学習問題に正対した結論を導き出せるようになっていく。

宇都宮市立雀宮南小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う。」と回答した児童の割合は9割を超えており、ICT機器を用いて調べ学習をしたり、課題に取り組ませたりする活動を効果的に取り入れる授業づくりを工夫している成果が表れている。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」という質問に、「1、当てはまる」と回答した児童の割合は9割を超えている。日頃の他の児童や教師との関わりにおいて、いじめについて考える機会を多く持ち、倫理観や他者を慮る気持ちを高めることができている。

○「国語の勉強は大切だと思いますか」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の項目では、肯定割合が高かった。国語の学習に対する意欲がある児童が多いと考えられる。

○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の肯定割合が高かった。全学級に「聞くポイント」「話すポイント」を掲示し、全学年で話の聞き方・話し方を指導していることが成果に表れていると考えられる。

●家庭学習の時間について、本校の6年生の目安である1時間以上取り組んでいる児童の割合は、十分とは言えない状況である。家庭学習の取り組み方について、保護者と共通理解を図るとともに、学校側から課題の提出の仕方を工夫する必要がある。

●「自分にはよいところがあると思いますか」「先生はあなたのよいところを認めてくれると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦しますか」「人が困っているときは、進んで助けていますか」の質問群すべての回答が、「当てはまる」という回答の割合より「どちらかという当てはまる」という回答が多い。自らの肯定的回答に自信を持って言い切ることができておらず、自己肯定感が高くなく、自己承認欲求が満たされていないと考えられる。学習、生活面において、自己肯定感を高められる取組を引き続き行っていく必要がある。教師や友達から認めてもらえるような場の設定に努める。

宇都宮市立雀宮南小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的な学力の定着を図る	・算数の計算の反復練習 ・算数の線分図を使った問題の反復練習	基本的な計算問題について定着してきている。 算数の線分図を読み取り、解く手掛かりとする力は高まっている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
知識や既習事項を活用し、言葉や数を使って、解法や理由を説明する問題の正答率と解答率が低い。	理由や自分の考えを書く等の言語活動の充実	短作文や授業の振り返り活動の機会を充実させることで、記述することへの苦手意識を取り除けるようにする。